

外部評価結果及び反映状況等について

課題名 新規就農者の育成・定着と経営発展及び中核的経営体への支援

評価結果：A（良好）

【評価すべき点】

- ・成果目標は、ほぼ達成している。
- ・経営に興味のない受講生が多い中、経営目標を作成させ経営に興味を持たせるように図っている。
- ・チェックリストによる5段階自己評価は具体的で手法として適切である。
- ・巡回指導を開始する時期を早め回数を増やすように努めている。
- ・中核的経営体への支援では、外部の専門化の活用を図っている。
- ・認定農業者や農業経営士の認定など、波及効果がみられる。

【改善すべき点】

- ・農協のセミナーとの違いの明確化、または農協と一緒に開催など、農協との連携体制を再構築すること。

【その他（意見・要望等）】

- ・セミナー修了後の受講者の現状について把握し、継続的な支援があるとよい。
- ・生産者により経営状況が異なるため、受講者の経営や要望等を踏まえた研修会の企画や開催、また農業に対する目的意識を高めるような活動を期待したい。
- ・生産者に合わせてセミナーを夕方開催にするなど検討するとよい。
- ・月1回の個別巡回指導には普及指導員の人数が必要なため、今後も体制の維持、さらには強化できるよう期待する。

評価に対する改善策等

【改善すべき点】

- ・勧誘時に農業基礎セミナーの目的や実施内容について、農協のセミナーとの違いを理解して受講できるように説明するとともに、セミナーの実施内容や開催時期については、農協と相互に情報提供し合い、連携調整を図ります。

【その他（意見・要望等）】

- ・農業基礎セミナー修了時にステップアップセミナーへ誘導していますが、受講を希望しなかった方へは相談等に応じて支援を行います。
- ・セミナーの内容は、社会情勢や受講者へのアンケートの意見を踏まえて実施し、農業への意識向上が図られるよう今後も工夫します。
- ・セミナーの開催時間については、夕方も含め、受講生の状況や意見を踏まえて検討します
- ・今後も、個別巡回指導が月1回行える体制を維持するように努めます。

次年度以降の普及指導計画への反映状況（又は反映予定）

今年度のセミナーについてアンケート等により新規就農者の意見を確認し、改善策を取り入れて今後の普及指導活動を進めていきます。

外部評価結果及び反映状況等について

課題名 農商工消連携による6次産業化および地域特産品の開発支援

評価結果：B（概ね良好）

【評価すべき点】

- ・成果目標は、数字上は達成している。
- ・個別相談やセミナー開催、巡回指導など細やかに指導がされている。
- ・食のイベントによる地域での活動は、農家同士の情報の共有などができている。
- ・農協や市役所、NPO法人等との連携や、消費者との交流が図られている。
- ・農産加工の原材料として生産量の増加につながっている。

【改善すべき点】

- ・成果目標は、加工を開始した者の数ではなく経営の観点からの指標とすること。
- ・課題の内容が網羅的となっているため重点化を図ること。
- ・販売量や販売金額、経費などを把握し、経営分析を行うこと。
- ・生産量とのバランスをとりながら、地域食ネットワークの活動を広げて実施していくこと。
- ・取組内容のPRの工夫や情報の発信を図ること。

【その他（意見・要望等）】

- ・商品開発だけでなく、加工を開始して2年目以降の追跡調査を行うとよい。
- ・地域の食育活動につながるような活動の強化を期待したい。
- ・食品表示基準が一部改正されたことによる、個別相談対応の充実を期待する。
- ・横浜市では区により保健所の指導が違うので、市との連携の中で統一されるよう働きかけを期待する。

評価に対する改善策等

【改善すべき点】

- ・加工経営の安定化支援の成果目標については、加工品の製造を希望する農業者が増加している現状をふまえて、新たに加工経営を開始する者へ計画等の作成を支援することが重要であるため、「加工経営を開始した者」と「経営計画・加工工程管理表を作成した者」の増加で捉えていきます。また、安定した経営の観点も重要であることから、その後の経営状況について、加工開始してから2年目以降に調査し、必要に応じて助言、指導します。
- ・課題の内容が網羅的となっていることについては、農産加工製造技術の向上支援が5か年の目標数値を達成したため、平成30年度計画より一般課題の対応として整理しました。今後は課題の軸となるオーダー型の商品開発支援と原料農産物の供給量の拡大に重点を置いて取り組みます。

- ・農産加工品の販売量・販売金額・経費などについては、特に加工原料農産物の安定生産支援としている農産物（大豆、ラッキョウ、トマト、梨）のデータを把握・分析し生産者にフィードバックできるようにします。
- ・地域食ネットワークの活動は、市や農協と連携し、消費者やNPO法人等の要望を聞き取り、実際の活動に当たっては、ニーズに合った農産物の生産量とのバランスに気を配りながら広げていきます。
- ・取組内容のPRの工夫や情報の発信については、講座等で成功事例を他地域の農業者等に紹介するとともに、県のホームページ等を活用します。

【その他（意見・要望等）】

- ・加工を開始して2年目以降の方については、その後の加工品の生産状況等を把握するため、年度末に追跡調査を実施します。
- ・地域の食育活動については、市や農協と協力し、食育活動に取り組んでいるふるさとの生活技術指導士などを消費者やNPO法人等へ紹介します。
- ・食品表示の一部改正による個別相談への対応については、市（保健衛生部署）や農協と連携して適正な表示ができるよう支援します。
- ・保健所の指導については、保健所に現場の状況を伝えつつ、市と連携して取り組んでいきます。

次年度以降の普及指導計画への反映状況（又は反映予定）

平成31年度以降は、農産加工品の生産状況等に関する追跡調査の実施や、加工原料農産物の安定生産では原料と加工品の販売量などのデータを把握・分析し、個別巡回を増やすなど、改善策を取り入れて指導を行っていきます。

外部評価結果及び反映状況等について

課題名 薬膳料理用農産物の導入と普及

評価結果：B（概ね良好）**【評価すべき点】**

- ・ 成果目標は、達成している。
- ・ 需要調査による品目の選定や、展示ほの設置による栽培品目の特性の把握を行っている。
- ・ 消費宣伝のなかで消費者にアンケート調査を行い、商品性を把握している。
- ・ J Aや県その他機関などと連携がとれている。

【改善すべき点】

- ・ 成果目標が品目数や栽培戸数では成果として弱いので、栽培面積や経営の改善などを指標とすること。
- ・ 薬膳料理用農産物の将来的な経営上のメリットを明確にして普及を図ること。
- ・ 需要を起こすことで生産につながるため、マーケットイン的な活動や定量的な需要の把握のための活動を行うこと。
- ・ パンフレットなどを活用して、取引先や消費者にPR活動を十分に行うこと。

【その他（意見・要望等）】

- ・ 産地での需要喚起のために、J Aの料理教室など活用するとよい。
- ・ 産地としての盛り上がり欠けるので、生産者が盛り上がるような活動を期待したい。

評価に対する改善策等**【改善すべき点】**

- ・ 成果目標については、本普及課題は次年度以降も重点課題として継続しますので栽培面積や生産量等の経営面での指標を取り入れるよう計画します。
- ・ 選定した品目の導入・普及に当たっての経営上のメリットを明確にするため、農業技術センター研究部門（生産・経営）と連携して取組んでおり、今後は経済性を含めた情報を提供していきます。
- ・ 需要の把握については、農業振興課、県西地域地域農政推進課と協力して、PRイベントでのアンケートや、料理店等へのサンプル提供時に意見聴取を行います。
- ・ PR活動はこれまでパンフレットの作成や配布を行ってきましたが、県西地域地域農政推進課と連携して、直売所や取引先の店舗等に置いてもらい、広く消費者にPRができるように活動します。

【その他（意見・要望等）】

- ・ 本年度、大井町にできたBiOTOP!Aのキッチンスタジオで、選定した農産物を利用した料理講習会を実証事業の中で実施します
- ・ PR活動の中で、生産者を取り込めるように次年度以降の事業計画に盛り込んでいきます。

次年度以降の普及指導計画への反映状況（又は反映予定）

本課題は平成30年度が最終年度ではありますが、薬膳料理用農産物栽培実証事業が次年度以降も事業継続されることにあわせ、重点課題として継続し、今回の外部評価での指摘事項等を考慮し、普及指導計画を作成する予定です。

外部評価結果及び反映状況等について

課題名 新規茶産地生産者の収益改善

評価結果：A（良好）

【評価すべき点】

- ・成果目標は、一部地域は未達成だが、それ以外は高い達成率である。
- ・作業管理計画シートの活用や個別巡回により、PDCAサイクルを回し、指導の浸透が図られている。
- ・巡回検討会で成果や課題を共有し、解決に向けて迅速に対応している。
- ・地区ごとに対応し、高齢者にも作業管理計画を立てさせるなど、活動にやる気が見られる。
- ・JAや茶業センターとの役割分担・連携が図られている。

【改善すべき点】

- ・後継者の育成や若い担い手を取り込む体制づくりを行うこと。
- ・経営改善した事例を示して普及を図ること。

【その他（意見・要望等）】

- ・需要が伸びているペットボトルや碾茶への対応があるとよい。
- ・地域の遊休農地対策として波及するために、現状目標値 30 万円/10a よりさらに収益性向上につながる取り組みを期待する。

評価に対する改善策等

【改善すべき点】

- ・高齢化が進む茶産地の担い手確保については、平野部の茶園では、本課題の成果のように収益性の高い茶園経営により実施するとともに、中山間部の茶園については、シルバー人材の活用など、多様な担い手を取り込めるようにJA、市町、生産者組合と連携して活動を行っていきます。
- ・本普及課題のように平野部の茶生産での機械化による省力化を図ることで、収益性の良い魅力ある茶園経営を示し、優良事例として普及活動を行っていきます。

【その他（意見・要望等）】

- ・飲料及び製品原料の生産についての技術指導は、試験研究や茶業センター等関係機関と協力・情報共有しながら取り組みます。
- ・目標達成した地域については、さらなる経営改善がなされるよう課題解決の指導を継続する予定です。

次年度以降の普及指導計画への反映状況（又は反映予定）

本課題は対象地域により計画の終了年次が異なることも含め、本課題で得られた成果、評価内容を考慮し、今後の普及計画に反映する予定です。